

別紙様式

「児童生徒、もしくは教職員のコミュニケーション能力の育成・向上」に関する実践事例

学校名	柳井市立 柳井中学校
テーマ	道徳授業における、構造的な授業の構想と葛藤資料の精選による話し合い活動の活性化
対象者（学年）	全学年（本事例は2年）
実施場所	各教室
<p>内容（具体的な取組）</p> <p>（1）ねらいと展開</p> <p>自己の価値観を表出して本音で語り合い、かかわり合いの中で互いの人間性を高め合うことをねらいとした道徳の展開を工夫している。</p> <p>そのために、各自の考えの拠り所を明確にでき、様々な考えが表出できる題材の選定に配慮している。また、学習過程を構造的に構想し、授業の前半に生徒の思考が拡散し、後半部で集中するように発問を吟味する。</p> <p>さらに、グループ構成や座席配置等を話し合いの立場から柔軟に組み替え、話し合い活動の環境を整える。</p> <p>また、授業における教師の発言はできるだけ控え、意見交換の司会役に徹する。</p> <p>（2）実践の工夫</p> <p>「六千人のビザ」を題材とし、「ビザを発行すべきか否か」を中心発問1とし、様々な命の存在に視点を向けさせる。また、中心発問2で「自分がビザを発行する、しないを決定することで生じる問題に責任がとれるか」を問い、杉原氏の決断の価値について考えさせた。</p> <p>この指導過程の詳細については、別紙指導案および構造図を参照。</p> <p>さらに、座席隊形については、「コ」の字型で、全員の顔が見える形で授業を進めていった。また、その配置については、意見が同じ生徒を近くに配置し、すぐに意見の確認ができるよう配慮した。</p> <p>また、教師は、隊形の中央付近に位置し、意見のやりとりの調整役に徹した。</p> <p>（3）成果及び課題</p> <p>正解のない題材であったことと、近くに同じ意見の生徒がいることで、発表前に確認ができるため、個別では自信のない生徒も、活発に話し合いに参加できた。</p> <p>生徒同士の話し合いによる授業展開が中心であったが、自己の意見に固執しすぎる生徒に、他の立場も尊重しながら自己の考えを深めさせていくためには、教師がどのようにかかわればよいかが課題として残った。</p>	
参考資料等	別添・・・指導案、構造図
学校ホームページアドレス	http://www.city-yanai.jp/school/tyugakko/yanachuu/index.html

第2学年 組 道徳指導案（2時間扱い）

平成 年 月 日（ ）第5・6校時
指導者 教諭

- 1 主題名 人間尊重の精神を養う（人類愛4ー(10)）
- 2 資料名 「六千人のビザ」
- 3 主眼 戦乱の中、自らの良心に従って、多くの人命を救った杉原千畝さんの決意を通して、人間愛の精神を大切に、国際的な視野に立って人類の幸福に貢献しようとする心情を養う。
- 4 準備物 ビデオテープ、ビデオデッキ、意見の表札（ネームプレート）
- 5 学習過程

		学習内容・活動	予想される生徒の反応	教師の支援
第一時	導入	1 資料の時代背景の理解 ① ビデオ前半（11分）を視聴する。	①ア 緊迫した情勢を感じ取る。 イ 各国間の関係が理解しにくい。 ウ ビザの役割がよく理解できない。	・資料の背景となる第二次世界大戦前後の極度に緊迫した国際情勢について押さえておくことで、資料の内容を把握しやすくしておく。 ・イヤウの生徒には、背景理解のうえでの価値観の表出が必要なので、ビデオ視聴後、教師が説明を加え、理解を促す。
	展	2 自己の価値観の表出 ② 資料「六千人のビザ」を読み、主人公は、ビザを発行すべきか、否かについて考える。 中心発問1 主人公は、ビザを発行すべきか。否か。	②ア 発行すべきである。 イ どちらかというど発行すべき。 ウ どちらともいえない。 エ 発行すべきでない。	・選択した理由についても考えさせることで、究極の状態での難しい選択が迫られていたことを意識させる。 ・選択に困る場合は、その理由を明らかにさせることで、中間の立場を認める。 ・意見の表札を黒板に貼らせ、自分の立場を意識化させるとともに、③の意見交換後、立場が変わった場合、その変化を他の生徒にも知らせる手立てとする。
第二時	開	③ 班内で、各立場をとった理由を述べ合い、その話し合いの内容を発表した後、全体でも意見交換をする。	③ア 発行 イ 中間 ウ 否 ・六千人の命がかかっている。 ・目の前の人を見捨てることはできない。 ・自分が当事者ならどうするかわからないので、無責任なことはいえない。 ・どちらも助かる方法を考える。 ・戦争拡大の可能性はある。 ・家族のことも大事。 ・職務上命令に従うべき。	・班内でひとつの意見にまとめるのではないことを確認しておく。 ・他の意見に対する反論がある場合は、理由とともに意見交換をさせる。 ・班内での話し合いの後、より多くの価値観に出会わせるために、全体での意見交換も行わせる。 ・意見交換により、立場が変わった生徒は、意見の表札を移動させ、その理由を発表させることで、価値葛藤の経緯を振り返らせる。
		3 価値観の深化 ④ 各理由の視点となる部分を考える。	④ア ユダヤ人の命 イ 家族の命（生活） ウ 戦争拡大への危惧	・各立場の根本にある価値観を考えることで、どの立場も、「命」視点をあてた考えであることに気づかせる。 ・ウの意見については、戦争拡大による更なる犠牲者の存在まで考えが深まらない場合は、教師がフォローする。
	⑤ 自分の立場を考えさせる。 中心発問2 自分が、ビザを発行する、しないを決定することで生じる問題について責任がもてるだろうか。	⑤ア 発行するからには、責任をとる覚悟はある。 イ 責任の問題ではなく、人としての良心の問題である。 ウ 国の命令に従う場合は、責任は国にある。	・人の命の行方を決定することに対する責任を問うことで杉原さんと自分自身を比較させ、「杉原さんの決断の価値」を自分の問題としてとらえさせる。	
	4 主人公の行動への共感 ⑥ ビザを発行しようと決意した杉原さんについて考える。	⑥ア 外務省の命令と自分の良心の葛藤に共感する。 イ 当時の国際情勢と常識を越えた決断に共感する。 ウ 自分の将来や家族を犠牲にしてまでの決断に共感する。 エ 不眠不休でビザを書き続けた使命感に共感する。	・ビザを発行しようと決意するまでの心の動き（苦悩）に注目させ、杉原さんが覚悟を決めた理由について互いの考えを深めさせる。 ・当時の国際情勢、外務省からの返事等から、杉原さんの決断は常識を超えるものがあつたことに気づかせ、勇気ある崇高な選択の背景にある国境を越えた大きな愛の大切さについて考えさせる。	
	整理	5 本時のまとめ ⑦ ビデオ後半（6分）を視聴し、感想を述べ合う。	⑦ア 命の大切さという正義に基づく行動が、未来につながったすばらしさを感じる。 イ 自分の今後の行動選択の基準として参考にしようとする。	・ぼろぼろになったビザを握りしめて杉原氏と感激の再会をした場面に着目させ、杉原氏の行為に対し、感動をもって受け止めさせたい。

- 6 評価
 - ・杉原千畝さんの生き方に共感し、人類の幸福に貢献しようとする心情が高まったか。
 - ・意見交換で、互いの考えをくみ取り、自分の考えを深めることができたか。

授業の構造図 道徳「六千人のビザ」(2時間扱い)

